

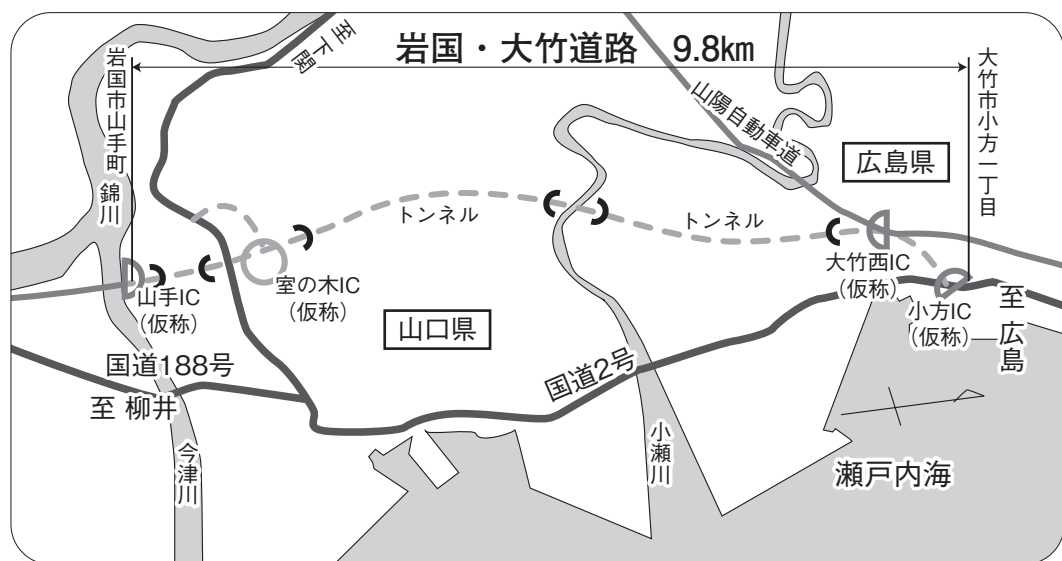
「通勤や観光だけでなく、岩国医療センターへの救急搬送時間の短縮も期待できますし、津波や台風で国道2号が通行できないときの代替道路となるなど経路の選択肢が増え、緊急時や災害時にもその力を発揮します」。

ほかに物流などにも効果があると中野課長は見ているようです。

「岩国大竹道路は県境にある国道2号の慢性的な渋滞解消などを目的に計画されました。整備区間にあたる国道2号の大竹から岩国間は、朝から夕方にかけての時間帯で時速20km以下になる主要渋滞箇所というところが12カ所もありま

「この道ができる」と急激に車両の台数が増加するとは考えにくいですが、御園地区で高速道路に接続しており、直接乗り入れができます。車両は黒川の出口に100%集中するのではなく、広島方面へは高速道路を選ぶことができますので、国道2号へ流れる車両台数の軽減が図れるのではないでしようか」と中野課長。

そんな岩国大竹道路ですが、既に岩国市や和木町では工事の槌音が響き、目に見え始めてきました。大竹市でも工事が始まるとはいえ、まだ緒に



▶国道2号の広島方面から走行すると、道路の中央から岩国大竹道路に進入します▶そのまま現在の国道を走る車両のため国道の両側を拡幅▶晴海入口交差点のインターチェンジからも乗り入れが可能▶岩国大竹道路は高架橋でカーブを描きながら山陽本線を越え御園方面へ向かいます▶御園地区に岩国側から広島方面の山陽道に接続するインターチェンジと料金所が設けられます▶御園からは大河原山を抜けるトンネル区間です▶元町4丁目の薬師寺付近がトンネル出口となります▶小瀬川に架橋し和木町に渡り、再びトンネル▶岩国市室の木町のインターチェンジが国道2号に接続▶室の木町で下りず直進すれば山手町で岩国南バイパスにつながり南岩国方面へ行けます。

成時期について明言するのは非常に難しいです。大竹市側の用地取得率が現在約6割であり、その進み具合も見ながら判断したいと思えます。残る用地については、大竹市さんとも調整を図りながら進め、早期に供用できるように努力していきたいです」。

少し答えにくいことを聞いてしまったかもしれません。

地域で活用できる道路に

中野課長は道路の完成後を見据えて言います。

「この道路をうまく使っていただきたいと考えます。例えば高架下の利用です。この空間を地元がどうやって活用するのか、将来のまちづくりを市も含めて地域の皆さんと共に考えたいと思えます」。

そして中野課長は、道路設計の信条を語ってくれます。

「まずその土地の風土を知りたいと思います」と。

この言葉にまちの歴史や人を知ることで、そのまちなにふさわしい環境に配慮した、言わば活きた道路をつくる。技術者としての矜持を垣間見た探検隊でした。

もしもーのときの道路

そこで事業を担当している国土交通省中国地方整備局広島国道事務所を訪ね、中野崇調査設計課長にお話を伺いました。

開通はいつ？

いいことづくめの道路のようですが、気になるのは岩国大竹道路の上り車線が現在の国道2号と合流する黒川付近で、新たな渋滞が発生するのではないかという懸念です。



どうなってるんじゃろ？

岩国大竹道路。

～いよいよ工事！県境結ぶバイパスの謎～

岩国大竹道路ってご存じですか。正式には「一般国道2号岩国・大竹道路」と言います。国道2号の大竹市小方1丁目から岩国市山手町を結ぶ長さ9.8kmの道路です。随分前から用地買収が始まっているようですが、なかなかカタチが見えてこない、と思っている皆さんも多いことでしょう。そこで探検隊は、岩国大竹道路が今どうなっているのかを調査してまいりました。

問い合わせ 監理課 ☎2161

活きた道路にしていきたい。

—探検隊、国交省に聞く—

第一歩踏み出す工事

岩国大竹道路は、国道2号のバイパスとして国が整備する無料の自動車専用道路です。平成17年度から用地買収が始まり10年が経過します。小方地区では家屋などの移転も進み、フェンスに囲まれた事業用地内では、亀居城関連の埋蔵文化財の調査も行われました。そしていよいよ岩国大竹道路工事の第一歩とも言える工事が小方1丁目の厳神社付近で始まります。

未来への懸け橋となる道路設計に携わる中野調査設計課長。

岩 国大竹道路の工事に伴い、小方地区で一部の市道の位置が変わります。どんなふうになるのか、探検隊は山本茂広土木課長に尋ねてみました。

「岩国大竹道路の高架の橋脚などの影響で、今の市道を付け替えなければなりません。国の工事の一端で機能回復を行います。この機会に安全な道路にしていきたいと思っています。」

「はて？安全な道路とはどんなものなのでしょう。」「道路構造令という基準にのっとった道路にします。例えば見通しのよい道路にしたり、勾配の緩やかな道路にしたり、



岩国大竹道路工事に伴う付け替え市道の説明をする山本土木課長。

平 成23年、晴海に新しくできた商業用地。岩国大竹道路の事業用地として立ち退きを余儀なくされた地元の業者の移転先です。自身も国道沿いから移転してきた大山正治さん。小方商和会という商業者団体の会長でもあります。

小 方地区では道路事業に数多くいます。協力された皆さんの思いとしては、一日でも早く道路ができることではないでしょうか」と大山さんは土地を離れた人の思いを代弁します。

「かつては隣近所で声を掛けあうコミュニティがありました。当時を懐かしく思い出すと、口では言い表せない悲しさがこみ上げてきます」大山さんは言葉をかみしめるように語ります。

歩道を整備したりすることなどです。センターラインを設けて車両のすれ違いもスムーズにできるようにします」と山本課長は安全な道路への改良の機会と捉えます。

付 け替え工事では、小方のJRガード下から晴海入口交差点に向けての市道が大きく変わるようです。

「現在国道2号を渡るルートは、北から小方交番前、晴海入口、市役所前の3カ所の交差点があります。晴海入口交差点は岩国大竹道路の出入り

市民の利便性が向上する道をつくりあげていきたい。

探検隊、土木課に聞くー



晴海入口交差点も様変わります。

口もできるので、安全確保のため車両の横断はできなくなります。歩行者や自転車での横断は可能です。車両で横断できる交差点は2カ所になります。市役所前交差点への市道の拡幅で国道への進入がスムーズになることや、国道の上り車線から晴海入口交差点への右折が可能になることなど、機能回復は十分できると考えています。」

市 道の改良と併せて小方地区の課題の一つであった雨水への対策もあるようです。

大事なものは生活道としての市道が今よりよくなるJR。

探検隊、地元聞くー



JRガード下の改良は検討課題です。

なることで、事業に反対の気持ちもありました。しかし自分たちも遠方に出かけたとき、新幹線や高速道路を使い、便利になったなあと思います。これらもその地で暮らしていた人たちの協力のおかげで行けるようになったと考え、協力しなければと気持ちも変わりました」と当時を振り返ります。

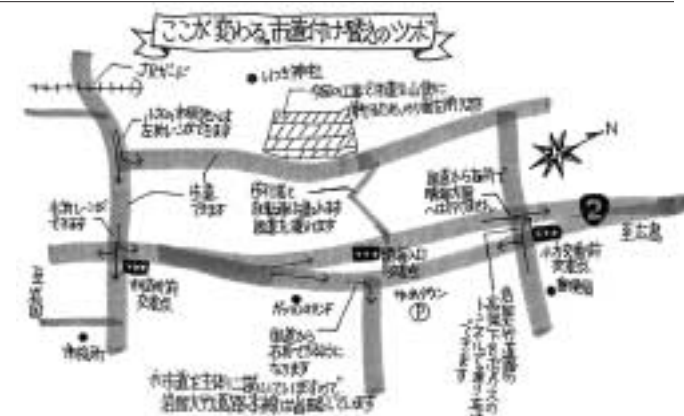
大 山さんは岩国大竹道路により商圏の広がりも期待しますが、何よりここに住む市民のための生活道の充実を望みます。

安全最優先の工事を。

探検隊、現場に聞くー

「安全はすべてに優先します」とは、国の発注工事を担当する宮川興業(株)の栗原正宏さんの第一声です。

今回の工事では、小方1丁目市道の位置を厳神社側に寄せるため、神社下の法面を削っていきます。「掘削工事では、低騒音の重機を使うようにして、工事の影響を極力抑えるよう努めます」と栗原さん。



早期完成を要望

岩国市、和木町などと構成する岩国大竹道路建設促進期成同盟会では、毎年国、県、地元選出国會議員に対して早期完成の要望をしています。今年度も7月28日に国土交通省本省を訪問し、石井啓一大臣に地域の強い思いを伝えました。(写真)石井大臣からは「地域の未来に資するよう、国も努力していきたい」と前向きな発言をいただきました。



「重要なのは今より不便になってはいけないということ。晴海に新しい大型の商業施設もできたことで確実に車は増えていると思います。立ち退きで商店がなくなり、お年寄りが手押し車を押しながら遠方まで買い物に出かけなければなりません。歩車分離の安全な車道、狭いJRのガード下も安心して通れる道にしたいと思っています。」

残土の搬出が始まるのは6月ごろの予定で、晴海方面への運搬車両の走行があります。冒頭の言葉のように、安全第一でスムーズな工事が進むよう願う探検隊です。



厳神社法面の下で、工事現場を受け持つ栗原正宏さん(右)と村竹敏彦さん(左)